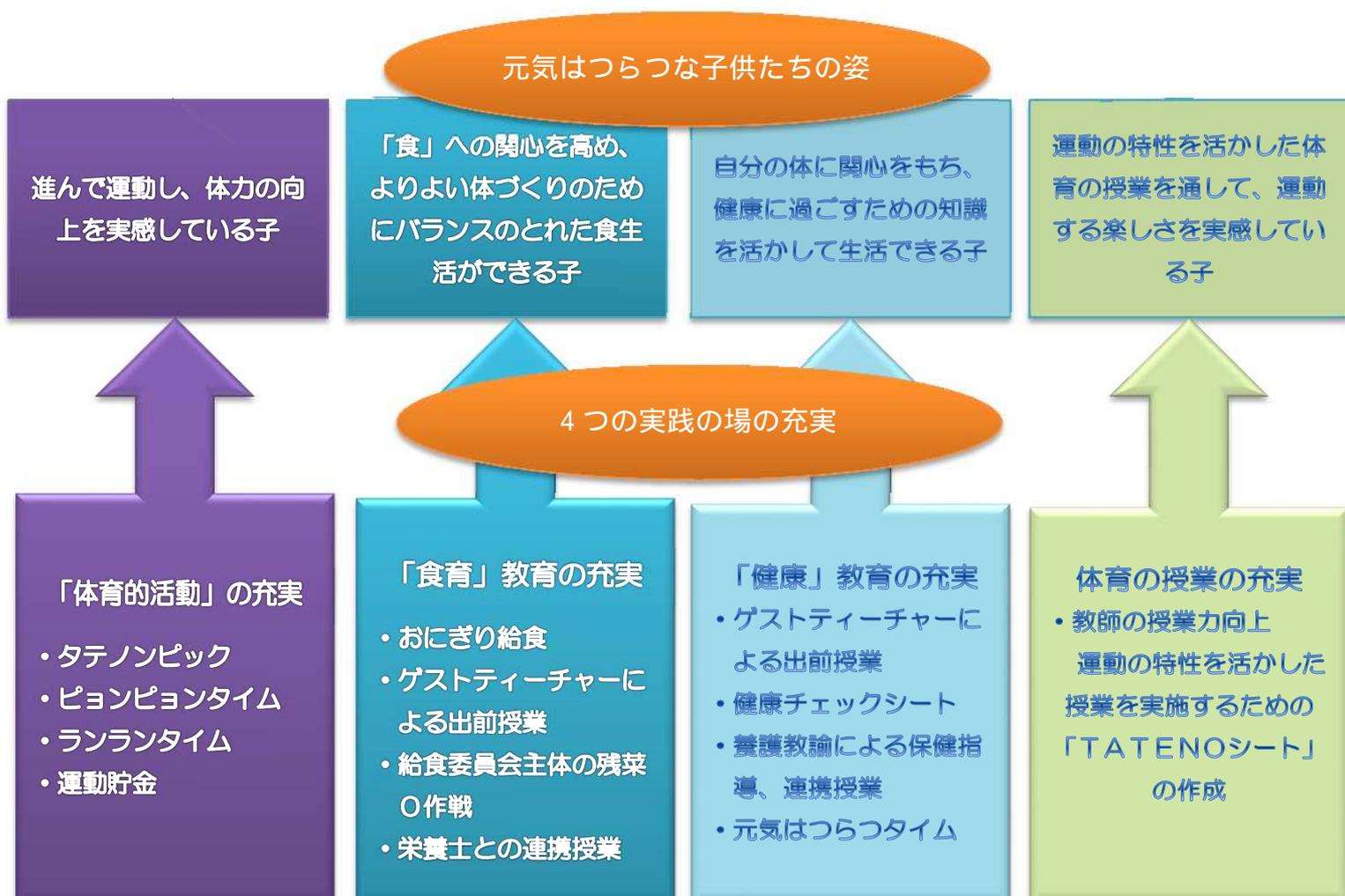


今年度の研究テーマ

元気はつらつ立野っ子 4つの実践を通して

昨年度は体育科を中心に研究を進め、10月の研究発表会では体育科の発表と同時に東京都の研究指定校として取り組んでいる「アクティブライフ研究実践校」の中間発表を行いました。今年度は、昨年度の研究を学習の中で生かしながら、「アクティブライフ研究実践校」としての取り組みのまとめの年であり、その発表を11月1日に行います

「アクティブライフ研究実践校」では、体力の基盤となる基本的な生活習慣の定着・改善に向けた取組や、栄養・運動・休養の健康三原則に係る保健指導などの具体的取組を実践研究し、小学校における健康教育の充実を図ります。



昨年度末の活動報告

パラリンピック 長距離ランナーを支え続ける

中田崇志さんのお話を聞いて

2月6日(火)陸上競技においてマラソンや長距離走に出場する視覚に障害がある選手に伴走する中田崇志さんをお招きして、5、6年生を対象とした授業を行いました。

授業では、まず子供たちが「視覚障害」について理解できるように、「視覚障害」とはどのようなものか、具体的にどのような見え方をするのかを映像を用いて教えていただきました。また、視覚障害者と一緒に歩くときには「少し前を歩く」「言葉で目の前の状況を伝える」などのポイントも教えていただきました。

そして、リオ・ロンドン・アテネオリンピック会場の雰囲気や選手村の様子など選手と一緒に出場したからこそ知っているお話に子供たちは目を輝かせていました。

中田さんは「障害のある人に皆さんから声をかけてほしい」「パラリンピックを見るだけでも選手の力になる」などのメッセージを伝えてくれました。最後には、持参したロンドンオリンピックで実際に伴走した選手がマラソンで獲得した銅メダルを、退場する子供たち一人一人に手に取ることができるように見送っていただきました。終始中田さんの温かい人柄を感じることができ、「東京で開かれるオリンピックが楽しみになってきた。」「声をかけることなら自分にもできそう。」などの子供たちの感想が聞けました。



なわとび名人の技にため息

2月15日(木)立野小学校の体育館になわとび名人がやってきました。その名は「生山ヒジキさん」なんと世界のイチローと同じ7つの世界記録をもっているすごい方です。

全校朝会では、自己紹介を兼ねてたくさんの技や音楽に合わせたリズムなわとびを披露してくれました。子供たちは、一つ一つの技を食い入るように見つめ、感嘆の声が上がっていました。二重跳びが二重跳びに見えないくらい軽々と跳んでいるのにびっくり！そして、世界で2人しか成功していないという後ろの五重跳び。リズム縄跳びは、様々な技を組み合わせるとなわとびの楽しさが伝わってきました。

その後、各学年を対象に30分ずつのなわとび教室が行われ、それぞれの学年に応じてなわとびを上達させるためのコツを伝授していただきました。

前回しや二重跳びでは、親指をまっすぐにする「親指持ち」がよいということや、交差とびを上達させるには、大きく腕を交差させること、縄が地面につくようにすることが大切、などちょっとしたことで技が上達することが分かりました。

この日の中休みや昼休みは、校庭でなわとびの練習をしている児童がいつもよりずっと多く見られました。ヒジキさんのおかげでなわとび熱がしばらく続きそうです。

